

平成 28 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	つだ福祉サ・ビス	代表者	津田泰造	法人・事業所の特徴	施設は田畑に囲まれており、のどかな雰囲気です。「かねの音」は【よく食べ・よく笑い・よく眠る】をモットーとしている、明るい事業所で、高齢者が【今、何がしたくて、何を感じているのか】を常に考えながら関わりを持っています。また、ご本人とご家族が笑顔で生活できる環境を作り、できるだけご希望に添った柔軟な対応ができるよう心がけています。【よく食べ】がモットーの先頭にくるように、“食は生きる原動力”と考えているので、地元の食材・季節の食材、で美味しいものを楽しみながら食べて頂けるようなレクリエーションが自慢です。
事業所名	かねの音	管理者	高橋 理恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人(書類のみ)	2人	1人	0人(書類のみ)	1人	0人	3人	0人	8人(2人書類のみ)

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>① 各自が「報・連・相」を常に意識をする。気づきや連絡事項等、確実に記録を行うことを実行し、また記録を読むことを実行する。これが確実に実行出来ているかを3か月ごとに自分たちでモニタリングを行っていく。</p> <p>② 例年通り年間行事を立て、地域と協働出来る内容を組み入れていく。また自治会の回覧板を活用し情報源としたり、また「事業所便り」を回覧して取り組みについて回覧を行う。</p> <p>③ ①②以外にも9項目それぞれに掲げた改善計画にも可能な限り取り組んでいく。</p>	<p>①特に書面へ残すことはしていないが、定期的に個人記録をモニタリングした。まだ十分とは言えないが利用者の「話し言葉」や表情についての記載やプランに沿った記載が徐々に書かれるようになってきた。</p> <p>②「事業便り」が回覧板に遅れてしまい実行できていない</p> <p>③退職した職員があり、また新入職員も在る。其の為取り組みとしては職員間の差が生じてしまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫をしながら取り組んでいると感じた。 ・プランを意識したケアができていているということは、利用者の自立支援に繋がることであり、良い取り組みが出来ている。 ・プランなどをファイリングし確認できるようにしたことは、職員一人一人が目標を共有でき、その目標に向かって支援出来ることに繋がっている。 ・5年以上勤続している職員と介護の経験がなく入職した職員間では、その評価内容に差が生じてしまった。今後は職員の質の底上げが必要である。 ・今回サービス体制強化加算や処遇体制加算に伴う個人目標や教育の体制を構築中それが反映させるといいと思う。 	<p>① 今後も各自が「報・連・相」を常に意識をする。気づきや連絡事項等、確実に記録を行うことを実行し、また記録を読むことを実行する。</p> <p>② 例年通り年間行事を立て、地域と協働出来る内容を組み入れていく。また自治会の回覧板を活用し情報源としていく。まずはパンフレットや季節の行事などについて回覧を行う。</p> <p>③ ①②以外にも9項目それぞれに掲げた改善計画にも可能な限り取り組んでいく。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>① 今後も引き続き明るい家庭的で雰囲気を味わってもらえるよう、写真や作品のディスプレイを行い事業所内の整理整頓に努める。</p> <p>② 職員が少なくなる20時には玄関も含め施錠し防犯強化に努める。</p>	<p>①季節を感じてもらえるような作品の展示などを行っている。整理整頓については不十分であると自覚している。しかし空気の入替えなど感染予防については確실히行っている。</p> <p>②20時には施錠を心掛ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の開錠は確認できているが、夜間の施錠の確認についてはできていない。 ・入りやすい雰囲気があり工夫されていると思う。利用者が楽しそうにしている。 ・温かく家庭的な雰囲気である。 ・利用者の方々の表情もすごくいいので事業所の環境がいいと解る。 ・どうしても物が増え乱雑になってしまっているところがあるので、整理整頓には今後も心掛けたいと思う 	<p>① 今後も引き続き明るい家庭的で雰囲気を味わってもらえるよう、写真や作品のディスプレイを行い事業所内の整理整頓に努める。</p> <p>② 職員が少なくなる20時には玄関も含め施錠し防犯強化に努める。</p>

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
C. 事業所と地域のかかわり	<p>① 今後も引き続き地区の一員として地区のお祭りやクリーン作戦など参加したり、また挨拶をはじめとし、今以上に地域との交流を行っていく。</p> <p>② 運営推進会議の場を今以上に活用し、地区・包括・事業所が情報の交換を行いお互いに協働出来るように取り組む。</p> <p>・事業所：①に準ずる。包括の地域支援推進事業員と共に協働を行っていく。</p> <p>・地区や包括：レクリエーションや行事等への参加を依頼する</p>	<p>①可能な限り地域行事への参加は行っている。</p> <p>②運営推進会議の場を借りて地域への発信をおこなってきた。また地域支援推進事業員と共にお宝発掘会議への参加も行っている。</p>	<p>・相談しやすい雰囲気であることは解かるが、実際に地域住人からどれくらいの相談があるかが十分には把握れていない。</p> <p>・地域との交流は盛んに行われており地域密着型の理念に沿った事業所であると感じる。此の交流を継続しさらに深いものとしてほしい。</p> <p>・積極的に地域との関わりをしており小協議体での発表もおこなった。</p> <p>・地域密着型サービスの在り方を実践されている事業所であり、2/14小協議体にて発表した。今後は市内の地域との関わりで悩んでいる事業所にも紹介して広めていってほしい。</p> <p>・地域の人皆が知っているかという点、事業所の事を知らない人が多いと思う。今後は一人でも多くの人への発信をおこなって行くといいと思う。その手段として「地区の総会」「回覧板の活用」介護保険事業所は難しいのでまずはパンフレットなどを回覧し、地域にどのような事業所があるかを周知するような努力が必要ではないか？</p> <p>・包括の紹介などで、地域の方の利用が増えては来ている。しかし実際はまだまだ周知されていない現状がある。</p> <p>・大貫地区のゆりかご保育園との関わりも今後も積極的におこなって行く。</p>	<p>① 今後も引き続き地区の一員として地区のお祭りやクリーン作戦など参加したり、また挨拶をはじめとし、今以上に地域との交流を行っていく。</p> <p>② 運営推進会議の場を今以上に活用し、地区・包括・事業所が情報の交換を行いお互いに協働出来るように取り組む。</p> <p>・事業所：①に準ずる。包括の地域支援推進事業員と共に協働を行っていく。</p> <p>・地区や包括：レクリエーションや行事等への参加を依頼する。また推進チームの方々へ声掛けを行い味噌づくりなどレクへの参加をお願いしていく。運営推進会議の席でレクを周知して行く。</p>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>①引き続き利用者の住む地域の区長や民生委員との連絡調整を行う。地域行事の参加や行きつけの理美容や商店の利用、かかりつけ医への通院、など個々の今までの暮らしを大切にしたいプランの作成とその人の状態に応じた支援を行っていく。</p>	<p>①全利用者とはいかないがその人が住む地域の受け入れ態勢などを確認しながら可能な限り地域へ出向くことができる支援を行っている。しかしどうしてもかねの音が生活の中心となってしまうことが往々にしてある為絶対に行われているとは限らない。</p>	<p>・積極的に地域に拘留しており行事・イベントの参加も利用者と共に参加している。</p> <p>・今後も地域へ出向いての活動を継続し市内の、地域交流を考えている事業所のモデルとして伝えてほしい。</p> <p>・利用者の住んでおり地域と関わることは難しいと思われるため、まずは事業所のある大貫との交流を行い利用者がその人らしく生活出来るような支援を行ってほしい。</p> <p>・「ゆりかご保育園」との交流も含め多世代交流を目指し発信していくことを目指すことも必要か？</p> <p>・各利用者の住む公民館の利用は難しいところもある。しかし本人の行きつけの理美容・病院・商店などは活用している。また他にも「まちの図書館」の活動参加なども行っている。</p>	<p>①引き続き利用者の住む地域の区長や民生委員との連絡調整を行う。地域行事の参加や行きつけの理美容や商店の利用、かかりつけ医への通院、など個々の今までの暮らしを大切にしたいプランの作成とその人の状態に応じた支援を行っていく。他にも事業所の中に閉じこもることのない活動を行って行く。</p> <p>②アグリ農園の活用も積極的に行い、収穫の際は利用者に「昔取った杵柄」と活躍出来る場所を提供し、旬の物を食する環境をつくっている。</p>

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>①地区の一員として地区のお祭りやクリーン作戦など参加したり、また挨拶をはじめとし、今以上に地域との交流を行っていく。</p> <p>② 運営推進会議の場を今以上に活用し、地区・包括・事業所が情報の交換を行いお互いに協働出来るように取り組む。</p> <p>・事業所：①に準ずる。 包括の地域支援推進事業員と共に協働を行っていく。</p> <p>・地区や包括：レクリエーションや行事等への参加を依頼する</p>	<p>・この外部評価をはじめとし運営推進会議の場での意見交換や情報の共有等行うことができたと思っている。</p>	<p>・区長や民生委員児童委員との交流はかなり充実している。地域の方々の生活を支えている推進チームとの交流を密にしていけると思われる。</p> <p>・運営推進会議の場では、地区の代表者・包括支援センター・行政との意見交換など活かすことができている。</p> <p>・運営推進会議を活かした取り組みを今後も継続して多世代交流まで活動を広めてほしい。また、地域の人や地域外の人たちにも参加してもらおうというのではないだろうか？</p>	<p>・まずは、大貫下区推進チームの方々との交流を積極的に行っていきたい。事業所の行事の予定を周知し運営推進会議より発信し招待していく。今後は運営推進会議を活動の拠点として地域へ出て行くことは勿論、地域の方を招くという活動を行っていく。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<p>①地区の避難場所（宮崎県立延岡しろやま支援学校）及び道順を職員全員が知る。</p> <p>②地域の災害訓練への参加。</p> <p>③事業所は引き続き年2回の火災訓練を行う。予定を運営推進会議で周知し一緒に行うことができる。</p>	<p>①地区の避難訓練に利用者と参加した。しかし途中でリタイヤしてしまい、災害時の避難の困難さを感じた。</p> <p>②③地域の方の事業所の訓練の参加は無かった。しかし消火器の使い方など利用者には体験を促した。</p>	<p>・夜間対応について地域との連携を知りたい。</p> <p>・実際に一緒に訓練を行うことはできていないが、近隣者からの「協力宣言」を受けている。</p> <p>・最近では災害が多いため訓練が大切である。小規模は宿泊設備があり夜間は職員が一人であることから利用者の安全確保のためには、地域住民の協力が不可欠である。運営推進会議等を通じ、地域との合同訓練を行うことが重要。また、地域の行事などに参加し事業所を知ってもらうことも協力してもらう体制づくりには大切であるため今後も地域交流を続けてほしい。</p>	<p>①地域の災害訓練への参加。</p> <p>③事業所は引き続き年2回の火災訓練を行う。予定を運営推進会議で周知し一緒に行うことができる。公民館の行事に参加している住人や推進チームの方々に声をかけていく。</p>